



## 外国出張報告書

平成 26 年 4 月 18 日

1. 出張国名     タイ、ラオス、マレーシア
  
2. 出張月     平成 26 年 1～3 月
  
3. 出張目的     1. 森林の炭素蓄積能力及び林産物収穫許容量の評価     : C  
                  2. 林産物利用実態と持続的森林管理手法の開発             : C  
                  3. 熱帯林の断片化がフタバガキ科樹種の雑種化に与える影響の解明
  
4. 成果の概要
  1. チーク人工林の現存量の調査可能箇所を特定した。チーク以外の樹種の現存量調査箇所に関しては交渉を続けている。ラオス国内のチーク人工林の現状の調査をおこなった結果、ラオス国内ではチークの研究が進んでおらず要望も高かった。また、我々が現在タイで実施中のプロジェクトに高い関心を示した。
  2. 休閑林の積算照度とオプトリーフ・フィルム退色の関係の調査及び調査区内に出現する樹種について胸高直径の測定及び新規確認個体と枯死個体の調査を行うには調査区の数が少ないことから、ラオス森林科学研究センターにおいて打合せの場をもち、調査区設定に関して協議し、作業を依頼した。
  3. マレーシア Negri Sembilam 州の森林保護区でおこなったサラノキ属樹種の雑種個体の調査では約 5ha の調査で *Shorea leprosula* と *Shorea curtisii* の間の雑種を 3 個体確認することができた。Pahang 州にある森林局の苗畑で *S. leprosula*、*S. curtisii* の苗の有無、産地、雑種個体の有無の確認をおこなった結果、雑種個体の確認はできなかった。